

降雨災害の脅威

～その危険はすぐそこに～



近年日本各地で、自然災害が多発しています。その地域と被害のなかには、住民や行政の想定を越えるものもありました。市では、6月に洪水・土砂災害を想定したハザードマップを作成しました。ハザードマップから危険を学び、災害に備えましょう。

市からも救助活動・被害家屋の調査業務に職員を派遣し復興支援を行いました。



土地がえぐられ中に浮いた家屋（東広島市／派遣職員撮影）

降雨災害は他人事ではない

雨は人々に恵みをもたらしますが、それは時に脅威ともなります。西日本を中心に発生した「平成30年7月豪雨」では、各地で大雨特別警報が発表され、死者220人・行方不明者10人と、大きな被害の傷跡を残していきました。

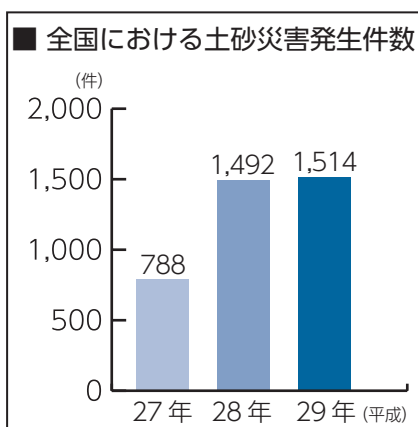
私たちにあって今回の水害は決して他人事ではありません。被害から災害の恐怖を学び、常に災害に備えることが大切です。

蒲郡の降雨災害の歴史

本市の降雨災害で忘れることのできないものは、昭和34年9月に上陸した伊勢湾台風です。死者5人、全壊家屋295戸の被害があり、蒲郡の観光のシンボルである竹島橋も崩落しました。その結果、被害総額約28億円と、まさに歴史に残る災害でした。

この被害を受け、災害対策基本法が制定され、本格的な対策が始まりました。

近年、日本では土砂災害が急増しており、市内でも平成20年8月末豪雨や、平成21年台風第18号などで床上浸水が発生しました。また、一部の林道が大雨で通行止めになることもあり、山間部と共に暮らす本市として、降雨災害は常に身近な災害であるといえます。



出典 平成30年版防災白書